

今回のテーマは家づくりについてです。

今年に入り、本当にたくさんのお住まいづくりの相談を受けるようになりました。我社は建築デザイン事務所とインテリアショップを営んでいるだけに、お客様も相応の期待を持って打ち合わせに望まれるので、こちらも期待を裏切るまいと必死です。(家庭をかえりみない夫、ここに誕生)

人が使う建物の設計は、ただカッコ良ければよし、と言う訳ではなくて、使い勝手が良くなければなりません。

特に住宅は、人が生活を営む為の建物であり、食事を作って食べたり、テレビを見たり、お風呂に入ったり、だんらんしたり、体を休めたり、お客様を招いたりなどなど・・・様々な使い勝手が交錯する場であり、一つの家族の人生ドラマを演出する舞台装置でもあります。

ところで皆さんは住宅を設計するのは、店舗を設計するよりも難しいという事をご存知でしたでしょうか？

理由は簡単、「住まい」という建物は簡単に定義する事ができないから・・・つまり、駅は電車に乗りやすく設計しますし、事務所は事務をしやすく設計する訳ですが、住まいは住みやすくて言ったって、人によって住みやすさの感性が違ってくるだけに、あれやこれやと頭を抱えながらお住まいづくりに奮闘する事になることは、雑誌やインターネットでその類の体験談や失敗例の記事多いのでご理解も早いはず。

二十一世紀美術館を設計した妹島和世さんや西沢立衛さんも、世界を飛び回る合間に、住宅の設計に余念がないそうです。人が生活をする上で、快適で使いやすい機能が集まった住宅を設計する事は、建築家にとって設計の基本を確認する行為でもあるので、できあがった作品(あえて住宅の事を作品と言います)を見ると、奇抜というか、変わっているというか・・・個性的というか??????

しかし、それがただ単に変わった家であるはずはなく、実に緻密に考えられた機能美であるから面白い。日光を取り入れたり、通風を考えたり、家事や収納がしやすかったり、ゆっくりくつろげたり、いろんな工夫がある中でデザインが検討してあります。

それを一番に感じる事ができるのは、実際にそこに住まう人であり、土曜の朝のテレビ番組(渡辺篤の建物探訪)にてでてる家族が、自慢げに我が家を案内する様を見ればわかります。

そう思うと、住宅展示場にあるモデルハウスは住宅の最先端のデザインが結集去れている様に思う方もいるかもしれませんが、必ずしも模範的な設計事例ではなく、あくまでも参考程度の建物でしかない事を、あまりしられてはいけません。

誤解があつてはいけないので、説明させていただきますと、モデルハウスが実際に街の中で建てている場合を想像してみると、南側に大きくひらいた開放感たっぷりの窓から入ってくるのは、明るい日差しや心地よい風の他に、外部からの人の視線や道路からの騒音も入ってきますし、(よほど敷地が広くて、前庭がある場合は別ですが)八十坪の敷地いっぱいには建物が建っていて駐車スペースがなかったり、コスト意識が全く無い建物が多いので、とても広々とした贅沢な間取りになっていますが、目の保養にしかならない非現実的な建物になっている事が多いのが実情。部分的なパーツを参考にするにはうってつけの施設だとは思いますが、モデルハウスのイメージを建築計画に盛り込む事は大きな間違いを生む事になりかねません。モデルハウスのデザインが気に入ったという事が、住まいづくりの間取りやデザインを決定する上での判断基準になる事はとても危険な事だという事は、隣家が押し迫った住宅密集地にある五十坪の土地に車を3台駐車する必要があるという建築計画がほとんどであることからわかること。

ブラットピットと同じ服を着ればブラットピット

になれるはずもない事は長年の経験からわかりますが、ただでさえ経験の少ない住まいづくりだから、とりあえず、モデルハウスや雑誌にあるようなデザインを真似したくなるのもしかたのないこと。ただここで知っておいて欲しいことは、リビングの他にファミリースペースを設けても、必ずしも希望どおりにそこで家族だんらんの時間が過ごせない事や、立派な子供部屋を作ったとたん、子供が毎日勉強をするようになって成績が上がるなんて事は考えられないと言うことです。

住宅をデザインするという事は、暮らしをデザインするという事であると思っています。

家族のライフスタイルを考えてそれにあった「器」をつくる事が家づくりで、その器にいろんな機能やデザインを施す事が住宅設計の要になると思っています。

又、家族のライフスタイルがそれぞれ違う様に、土地(敷地)の特徴(個性)も考えなければなりません。例えば、海や山や河や公園に面した土地であれば、必ずしも面している方が南側でなくても、大きく窓を開放して借景を楽しめる方が快適な間取りになりますし、南側に間口が開放された土地(南側が道路に面した土地)であったとしても、ブライバシーを考慮せずに大きな窓を設けてしまうと、落ち着かないリビングをつくってしまうことはおろか、せっかくの気持ちのよい晴れ間にも、レースをしめっぱなしにしなければならず、見える風景といえ、自分の愛車が駐車されているだけ・・・それでは何の為に高額な南側道路の一等地を購入したのかかわからなくなってしまうのではないのでしょうか？

住まいについてのデザインは、家族全員が、その建物に愛着をもって、楽しく過ごせるデザインであってほしいと思います。